

令和7年度文書館の逸品6

# 「古社寺調」桜咲き誇る(龍海院絵図)

展示期間 令和8年3月3日(火)～4月28日(火)



龍海院（前橋市紅雲町）は前橋藩主・酒井家の  
菩提寺として知られる名刹です。

絵図に描かれた龍海院は、今も春になると  
桜が咲き誇り、往時の姿を偲ぼせる景観が  
広がります。歴史資料としての価値と、併  
せて紹介します。

『前橋市古寺古社調』（一部抜粋） A0181A0M 2315

群馬県立文書館

〒371-0801 前橋市文京町3丁目27-26

TEL 027(221)2346 FAX 027(221)1628

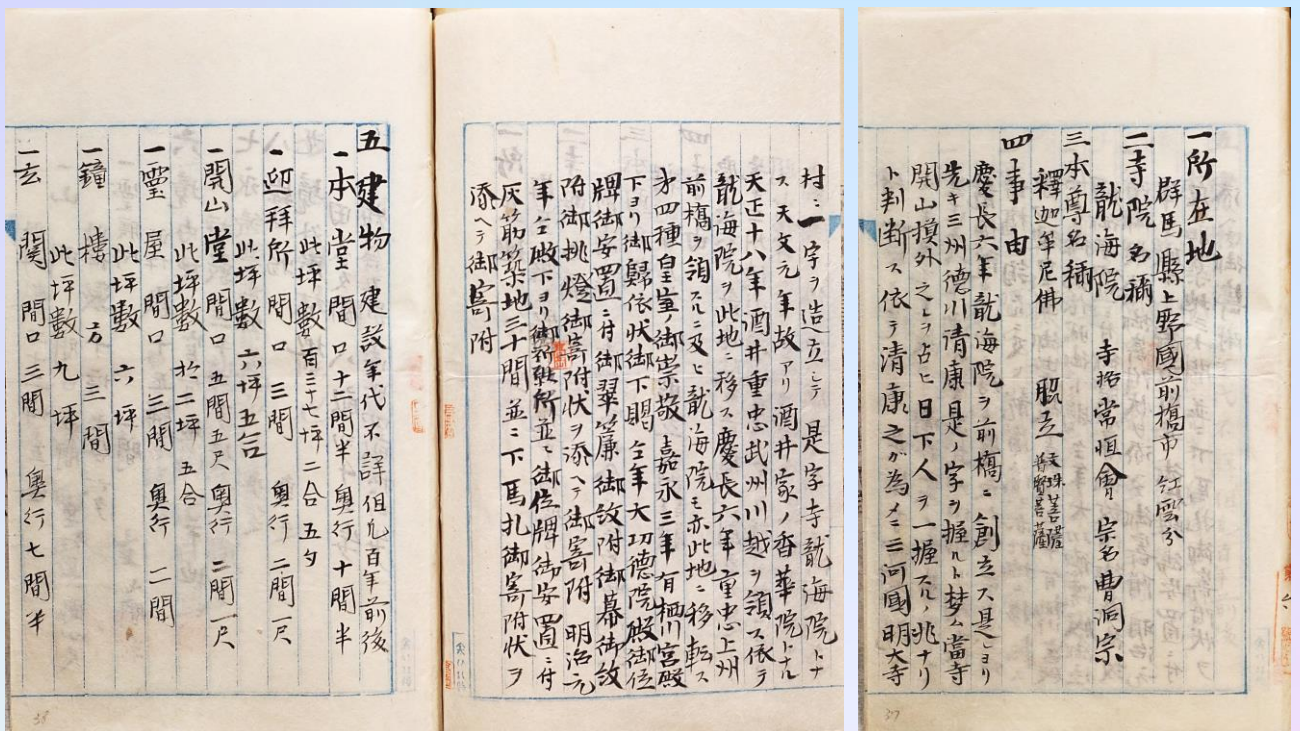
URL <https://www.pref.gunma.jp/site/monjyokan/>  
mail [monjyo@pref.gunma.lg.jp](mailto:monjyo@pref.gunma.lg.jp)

## 「古社寺調」とは

明治維新による廃仏毀釈や文明開化の流れは、古くからの伝統文化(美術品や建造物など)を軽視する風潮を生み、多くの文化財が危機に直面することとなりました。

そこで明治政府は明治28年(1895)、各府県に対して保護対象となる古社寺の実態調査を指示し、報告書と絵図の提出を求めました。これが「古社寺調」と呼ばれる調査です。この調査結果をもとに、明治30年(1897)には「古社寺保存法」が制定され、日本における文化財保護行政が本格的に始まりました。

「群馬県行政文書」として残る資料は、これを受けて明治29年(1896)に作成された報告書の控えです。この控えには、現在では失われた寺社の当時の景観が詳細な絵図で残されており、県の歴史を物語る第一級の史料です。



## 【龍海院絵図について】

江戸時代、前橋藩主酒井家の菩提寺であり、現在は前橋市紅雲町にある「龍海院」の絵図です。絵図の中央に描かれている山門には、正面南に増長天王像、北に毘沙門天王像が納められています。また、絵図の下方に描かれている門と塀は現在失われています。